

[2011 年度事業計画]

1.課題と事業方針

2011 年度は、東日本大震災という未曾有の大災害の混乱の中で始まります。秋には念願の UIA2011 東京大会の開催が予定されていますが、これも今回の被災の影響を大きく受けざるを得ません。事業計画は立てにくい状況ではありますが、こういうときこそ、社会から本当に望まれる建築家の職能を再確認して、JIA の真価を発揮するときだと考えています。

UIA2011 東京大会推進と災害支援活動の強化・拡大。特に 2011 年度の前半はこの両者を有機的に結合して重点的に進めることが、JIA にとって非常に有意義な活動になると考えます。

また UIA2011 東京大会終了後の JIA のあり方を真剣に考えるときでもあります。JIA を次世代に継承する基盤をさらに万全なものとするために、2010 年度に引き続き、内なる改革として、「組織再編」、「財政再建」、「法・資格制度改革」といった内・外両面の改革を強力に推し進めます。2010 年度に設定した基本方針「社会に開かれた JIA」をさらに拡充して展開していく考えです（2010 年度事業報告を参照してください）。

2.主な施策

〔UIA2011 東京大会推進〕

2011 年度はまず、間近に迫った UIA2011 東京大会に向けて JIA の勢力を投入していきます。

会員の中には大会を中止すべきとの意見もありましたが、JOB との交渉も踏まえ、むしろ、災害に対する建築家の責務と求められる職能といったテーマを基調にして社会のニーズに応えることを選択しています。プログラム、予算、運営方法等についても大きな見直しが必要となると考えられるため、JIA の全力を挙げて JOB へ支援をしていく方針です。

〔災害支援活動の強化・拡大〕

UIA2011 東京大会推進と同時に、被災地への災害支援活動に対しても大きな力を注ぎます。

従来からの被災地の地元における支援活動をさらにスケールアップして進め

ていくことに加え、復興計画への提案・提言をはじめ復興段階への支援へと活動の内容を拡大していきます。なお復興段階の支援活動についても、地元に着した活動が必要と考えます。

〔組織再編〕

公益社団法人への移行にともなって、組織の整備が大きな課題となっています。定款改定に同時に実質的な見直しが必要なものとして、会員種別の再考、さらに本部・支部・地域会の位置づけの確認といった重要な課題があります。

2010年度に着手した事業活動を担う委員会体制の見直しに関しては、さらに第二段階の再編を実施します。またそれに伴い効率的に機能する事務局業務体制づくりに向けた改革を行います。

〔財政再建〕

財政再建についても、2011年度は会費値上げを実施するものの、依然 JIA の財政は潤沢ではありません。従来の事業活動のさらなる効率化、事務所経費の節減に努め、上述の UIA2011 東京大会推進と災害支援活動の強化・拡大で新たに必要となってくる UIA2011 東京関連事業費用、災害対策事業費用を捻出する考えです。

〔法・資格制度改革〕

外向けには、まず法・資格制度改革も加速させる必要があります。JIA の登録建築家と日本建築士会連合会の統括設計専攻建築士制度との一体化も具体的ステップに入りますが、認定基準の統一と共通の第三者機関の設置の検討といった具体的成果を期待しています。

国交省が建築法体系勉強会で検討していると考えられる基本法制定への提案や、日本建築事務所協会連合会の要望する事務所法（業務法）の制定にも積極的に関与していく考えです。

〔建築家の業務環境改善〕

また、建築家の業務環境を巡る問題への対策としては、現行では課題もあるプロポーザル・コンペの方式への提案に加え、問題が表面化していたデザインビルドへの対応問題も検討していく必要があります。

〔新たなマーケット開拓と JIA ブランド構築〕

地域で建築・まちづくりをサポートする専門家としての「コミュニティアーキテクト」の具体的な業務のあり方等を他団体とのネットワークにより明確化

していきます。

また、UIA2011 東京大会終了後が「国際化新時代」の本番です。「クロスボーダーアーキテクト」として日本の建築家が海外で活躍できるよう、情報提供や活動支援を積極的に行います。

また、広報活動として、メディア等を通じて「社会から信頼される建築家」というブランド認知のいっそうの拡大に努めます。